

TOYOTA MOTOR EAST JAPAN, INC.

2015 環境社会報告書



トヨタ自動車東日本株式会社

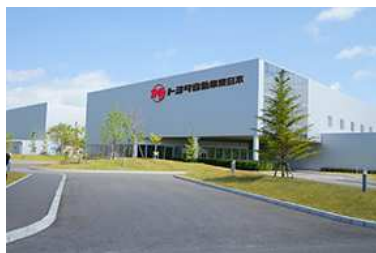
会社プロフィール

会社概要



発足	2012年7月
本社所在地	宮城県黒川郡大衡村中央平1番地
資本金	68.5億円
従業員数	約7,600名
事業内容	トヨタ車の企画・研究開発・生産

事業所



本社・宮城大衡工場
〒981-3609
宮城県黒川郡大衡村中央平1番地
TEL (022) 765-6000 (大代表)



宮城大和工場
〒981-3408
宮城県黒川郡大和町松坂平5-1-1
TEL (022) 345-6711 (大代表)



岩手工場
〒029-4503
岩手県胆沢郡金ヶ崎町西根森山1
TEL (0197) 41-1120 (大代表)



東富士総合センター
〒410-1198
静岡県裾野市御宿1501
TEL (055) 996-2000 (大代表)



東富士工場
〒410-1195
静岡県裾野市御宿1200
TEL (055) 997-1111 (大代表)



須山工場
〒410-1231
静岡県裾野市須山2810-1
TEL (055) 965-1700

《海外拠点》

KANJI KO DO BRASIL
INDUSTRIA AUTOMOTIVA LTDA.
(ブラジル)



ソロカバ工場



サルト工場

ACSE
Auto CS Engineering Co., Ltd.
(タイ)



横須賀事業所
〒237-8585
神奈川県横須賀市田浦港町無番地
TEL (046) 861-5111 (大代表)

会社プロフィール

生産車



シエンタ



カローラアクシオ
カローラアクシオハイブリッド



カローラフィールダー
カローラフィールダーハイブリッド



アクア



ラクティス



イスト



ヤリスセダン



ボルテ



スパイド



アイシス



センチュリー



クラウンセダン



クラウンコンフォート



コンフォート

主な自動車部品



エンジン



トルクコンバーター



アクスル



電子制御
ブレーキ・システム

INDEX

会社プロフィール

会社概要・事業所・生産車・主な自動車部品 2

トップメッセージ

魅力あるコンパクト車づくり
世界NO. 1を目指して 4

会社方針

目指す姿と会社方針 5

トピックス

東北への思い 8

環境報告

環境への取組みの考え方 11
第5次環境取組みプラン 12
2014年度活動実績 13
開発・設計 14
生産 16
環境保全活動 20
地域社会とのコミュニケーション活動 24
子会社の取組み 25

社会性報告

お客様との関わり 26
社会との関わり 28
従業員との関わり 32

本報告書は2014年度（2014年4月～2015年3月）における当社単独ベースの取組みを主体にまとめ、一部においては2015年度を含みます。

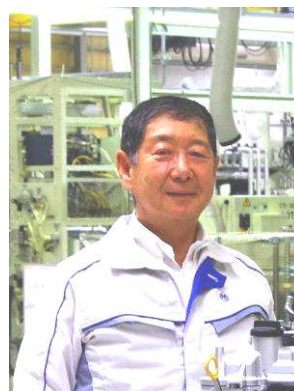
本誌では当社の活動のポイントを紹介し、更に詳しく知りたい方には、本文中の [詳しくはこちら](#) をクリックいただくと関連情報を閲覧できる様に致しました。

表紙の写真

・岩手県木 : ナンプ アカマツ (岩手県岩泉町)
・当社製車両 : 新型シエンタ、アクア

トップメッセージ

魅力あるコンパクト車づくり 世界No.1を目指して



取締役社長
白根 武史

はじめに

トヨタ自動車東日本は、関東自動車工業・セントラル自動車・トヨタ自動車東北の3社が統合し2012年7月に誕生いたしました。統合4年目にあたる本年は、当社の目指す姿である『東北を基盤に 世界一の競争力を持つ 魅力あるコンパクト車をつくる』の実現に向けて、グローバルな視点で「魅力あるコンパクト車の企画提案力を強化」とするとともに、東北の地にしっかりと根を張り、地域の皆様と連携・切磋琢磨した「ものづくり改革を通じて競争力を向上」させ、いつの時代も一歩先を行くクルマづくり&ものづくりで世界をリードしていきたいと考えております。

人と地球環境に優しいクルマづくり&ものづくり

本年6月ドイツにて主要国首脳会議（G7）が開催され、温室効果ガスを2050年までに2010年比40%から70%の幅で削減するという目標を方向付けしたように、地球温暖化防止は人類共通の重要な課題となっております。

当社は自動車産業に関わる企業として地球温暖化防止のため、温室効果ガスの大幅低減をはじめとする環境問題への取組みと、地域社会から信頼されるための法令遵守徹底を経営の最重要課題の一つとして位置付けております。この課題解決に向け、現在、2015年度を目標年度とした「第5次環境取組みプラン」を策定し、その達成に向けた取組みを推進しております。

このプランでは「低炭素社会」「循環型社会」「環境保全と自然共生社会」の構築を3本柱とし環境に優しいクルマの企画・開発と地域や自然との共生および環境負荷低減に資するものづくりに、全社を挙げて取り組んでおります。

具体的な取組みとしては、世界最高の燃費性能を持つコンパクトハイブリッド車「アクア」に加え、この7月に発表した新型ミニバン「シエンタ」等の製品開発を通じた先進的な環境性能を持つコンパクト車シリーズのクルマづくりを、ものづくりでは低炭素社会の構築に向けCO₂低減を最重点項目に掲げ、徹底した省エネ活動の推進と雪冷熱や地中熱利用など、地域の特徴を活かし自然エネルギーを利用した活動を推進し、人と地球環境に優しい取組みを推進しております。

この報告書により、当社の取組み姿勢や活動内容をご理解いただくとともに、忌憚のないご意見をお待ちしております。

今後もお客様、社会・環境との調和を図りながら、一層の努力を続けてまいります。

皆様のご支援、ご愛顧を賜りますよう心よりお願い申し上げます。

2015年7月

会社方針

目指す姿と会社方針

私たちの目指す姿 東北を基盤に 世界一の競争力を持つ 魅力あるコンパクト車をつくる

2012年の新会社設立の際に掲げた、この目指す姿には

- 東北の地に根付き、地域と一体となったものづくりを続け、地域の一員として愛される企業市民となっていきたい。
 - 世界中の車両メーカーが凌ぎを削るコンパクト車だからこそ、日本のものづくりの強みである高技能と革新技术力を活かし、日本から競争力のあるクルマを産み出し続けていきたい。
 - 日本で鍛えられた力を世界のコンパクト車づくりに活かし、トヨタのグローバルのコンパクト車づくりのリーダーを目指して努力していきたい。
- という私たちの思いが込められています。



この目指す姿の実現に向けて、2015年度の会社方針では「コンパクト車の専門集団になる」取組みとして以下の2点を重点推進事項とし、TNGA^{※1}（Toyota New Global Architecture）に基づく商品開発と競争力のあるものづくりを推進してまいります。

※1 トヨタ自動車(株)が提唱する商品力の飛躍的な向上と原価低減を同時に達成する新しいクルマづくりの方針

- ◆ 次期コンパクト車シリーズの開発～生製準^{※2}への取組み
- ◆ グローバル競争に打ち勝つ、ものづくり競争力の強化

※2 生産準備と製造準備をさす

これらの遂行に当たりましては、開発から生産技術、生産における新技術の創出や、モデルライフマネジメントに基づく新規車種提案を積極的に行うとともに、より厳しい経営環境にも柔軟に対応できるよう企業体質を一層強化してまいります。また、トヨタ国内第3の拠点である「東北」を担う会社として、社員一人ひとりが地域から信頼され、地域と共に成長していく行動を実践しお客様・社会・環境との調和を図ってまいります。

私たちの
目指す姿

東北を基盤に
世界一の競争力を持つ
魅力あるコンパクト車をつくる

2015年度
会社方針

コンパクト車の専門集団になる取組み

次期コンパクト車
シリーズの開発～生製準
への取組み

グローバル競争に
打ち勝つ
ものづくり競争力の
強化

経営基盤強化の取組み

企業体質強化

持続的成長に向けた
各施策の推進

東北に根付く
取組みの推進

会社方針

目指す姿と会社方針

コンパクト車の専門集団になる

もっといいクルマを企画する取組み

私たちは目指す姿の実現に向け「企画から生産まで一貫して行える『コンパクト車の専門集団』」となるための一つとして、商品を企画する力を強化してまいりました。

まだまだ微力ではありますが、トヨタ自動車（株）と一緒に企画を進めながら、私たちの思いを織り込んだ商品を少しずつ世の中に送り出すことができるようになってきました。いいクルマを企画するため、日々熱い議論を戦わせています。これまでの成果のうちのいくつかを紹介します。



新型シエンタ

本年7月に発表されたばかりの新型シエンタは、低床&フラットフロアの圧倒的な乗り降りのしやすさをアピールポイントに、子育てファミリーや子離れ夫婦層、また、来たる超高齢者社会をも先取りした『全てに優しいコンパクト ミニバン』として企画しました。



ダントツの乗降性とゆとりの着座姿勢・室内空間を実現する低床&フラットフロアを簡易モデルなどにより、繰返し確認を行ないました。これにより、コンパクトミニバンとしてのコンセプトを固めていきました。

アクア マイナーチェンジ

ー クロスオーバースタイルの新グレード「X-URBAN」を設定 ー



新しいアクアは、親しみやすいデザインやポップなカラーバリエーションが醸し出す楽しさでアクアワールド（アクアの世界観）を更に進化させています。

また、都会的センスのクロスオーバーとして「X-URBAN」という新たな個性を手に入れました。



会社方針

目指す姿と会社方針

カローラフィールダー／アクシオ マイナーチェンジ

カローラフィールダーを中心にデザインし、若者が素直にカッコいいと感じるスポーティかつモダンな方向にイメージチェンジしました。好評な取り回し性能の良さを保ちながらもシャープなデザインを両立させることで、コンパクトステーションワゴンとしての魅力をより強く感じていただけたと思います。



ポルテ 特別仕様車 F “a la mode”

右の写真のスーパーブライトイエロー（特別設定）またはクリームベージュのボディカラーに、ブラウンのラジエーターグリルとドアミラー、インパネのレジスターリングをアクセントカラーとして配し「かわいい」個性を演出しました。



ラジエーターグリル



ドアミラー



レジスターリング



スパイド 特別仕様車 F “Jack”



外装をめっき加飾、内装色をブラックで統一することにより、スタイリッシュな“Jack”感を表現しました。ぜひ、多くのお客様にお乗りいただきたいと思います。

トピックス

東北への思い

目指す姿の実現に向けた地域と一体となった取組み

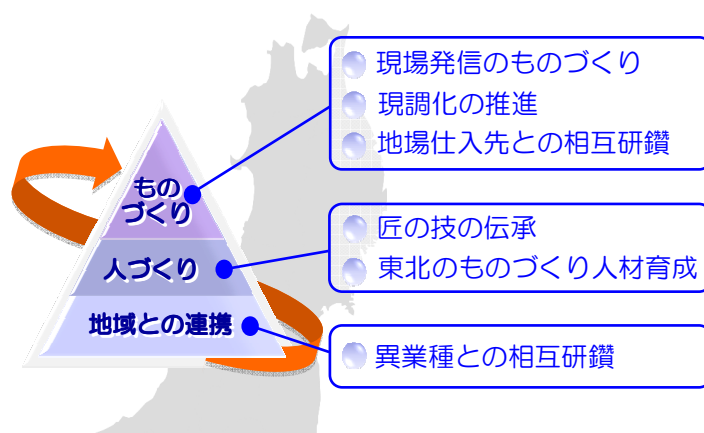
当社の目指す姿である『東北を基盤に 世界一の競争力を持つ 魅力あるコンパクト車をつくる』の実現に向け、「ものづくり」「人づくり」「地域との連携」を3本柱に、地域の皆様と一体となり取組むことにより、東北の未来をつくり、そして東北から日本の未来をつくる取組みを進めております。

ものづくり

● 現場発信のものづくり

当社が任されたコンパクト車は世界中の各メーカーが凌ぎを削る最激戦の市場であり、生き残っていくためには、日本の「ものづくり」の強みである『現場の高い技能』を最大限活かし、現場発信の現場一人ひとりの知恵と工夫を活かしたものであり、競争力を持ち続けたいと考えております。

その一つの取組みが「からくり※1」であり、現場の一人ひとりの知恵と工夫を活かしたものが、グローバルな競争に打ち勝つ源泉となると考えております。



※1 からくり

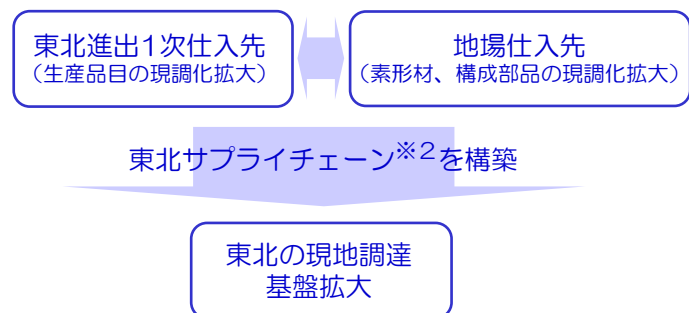
生産ラインの作業の中で問題点を改善し、より良い作業環境を作り出す取組み。そのために電気などの動力を使うのではなく、重力のような自然エネルギーを使い、単純な仕組みの道具を自分達で考え、手作りし、使って工夫をしていくもの

● 現場調化の推進

2012年1月、『東北現場調化センター』を新設し、東北の自動車産業の裾野を広げる取組みを地域の企業の皆様とともに進めております。

※2 サプライチェーン

素形材、構成部品から最終納入品までの一連の調達プロセスをいう

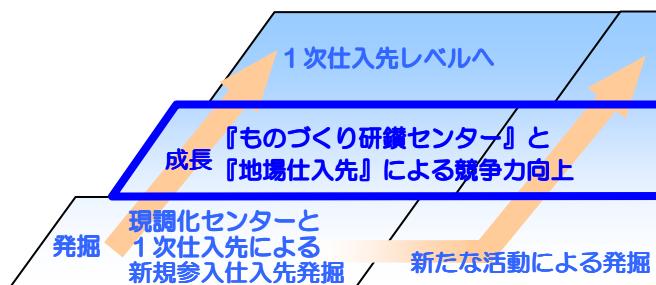


トピックス

東北への思い

● 地場仕入先との相互研鑽活動

2013年7月『ものづくり研鑽センター』を新設し、東北におけるものづくり競争力の底上げを目的に地場仕入先の皆様と一緒に、品質や生産性の向上に取り組んでおります。この取り組みを通して人が育ち、ものづくりの輪が広がり、やがてはものづくり競争力の向上に結びつくものと考えております。



地場仕入先の皆様と相互研鑽活動

人づくり

● 匠の技の伝承

日本のものづくりの強みは「現場の高い技能」であり、そのものづくりを支えるのは人です。クルマづくりで培った高い技能を形式知化し、ベテランから若手に絶え間なく確実に伝承する取り組みを進めております。

「センチュリーの匠の技の伝承」の例



外板面の仕上げ



外板面の検査

世界最高級品質のクルマづくりの匠の技がベテランから若手へ脈々と伝承

● 東北のものづくり人材育成

2013年4月にトヨタ東日本学園を設立し、将来、ものづくり現場の中核として活躍できる人材の育成に取り組んでおります。対象は当社の社員だけでなく、東北のものづくり企業の皆様にも受講いただいております。卒業生が現場の柱となって10年、20年と年輪を重ねるように東北の『ものづくり』が広まっていくことに大きな期待を抱いております。また、ものづくりを通じた『人の輪』を更に広げていきたいと考えております。

① 詳しくはこちら

トヨタ東日本学園の外観



東北の『人の輪』を拡大



トピックス

東北への思い

地域との連携

● 異業種との相互研鑽

当社は東北の企業として、地域に広く、そして深く根を張るべく、自動車関連部品企業のみならず、異業種企業の皆様とも、ものづくりを通じた品質および生産性向上の相互研鑽に取組み、地域に寄与していきたいと考えております。



ものづくりを通じて地域に寄与



当社のこれからの思い

● 東北から世界へ

当社は2012年7月に誕生し、本年は統合後4年目に入りましたが、取組みはまだまだ道半ばです。

『東北を基盤に 世界一の競争力を持つ 魅力あるコンパクト車をつくる』という目指す姿を実現するために、ものづくりに適した東北の「風土・文化・人の気質」をもっと活かさせていただき、もっと東北に根を張り、ものづくりの基盤を構築していきたいと考えております。

そして、東北のものがづくりが日本を牽引し、東北の地から世界へ発信し続けられるように地域の皆様と一緒に取組んでまいります。



環境への取組みの考え方

当社はグループの環境指針であるトヨタ自動車（株）の「トヨタ地球環境憲章」を受け、「環境に関する取組みの基本方針」を2012年7月に制定し、下記の4本柱で活動しております。また取組み体制は、全社と拠点の環境会議を有機的に結合させ、さらに子会社とも連携し環境保全活動を推進しております。

環境に関する取組みの基本方針

1. 豊かな21世紀社会への貢献

豊かな21世紀社会へ貢献するため環境との調和のある成長を目指し、事業活動の全ての領域を通じてゼロエミッションに挑戦します。

2. 環境技術の追求

環境技術のあらゆる可能性を追求し環境と経済の両立を実現する新技術の開発と定着に取組みます。



環境
ロゴマーク

3. 自主的な取組み

未然防止の徹底と法基準の遵守に努めることはもとより、地球規模及び各国・各地域の環境課題を踏まえた自主的な改善計画を策定し、継続的な取組みを推進していきます。

4. 社会との連携・協力

関係会社や関連産業との協力はもとより政府、自治体を始め、環境保全に関わる社会の幅広い層との連携・協力関係を構築していきます。

環境取組み体制

環境会議

当社の重要環境課題について対応の方向付けを行い、環境保全活動の推進を図ります。〔議長：環境担当役員 委員：関係役員・部長〕

宮城大衡工場 環境会議

宮城大和工場 環境会議

岩手工場 環境会議

東富土工場 環境会議

東富士総合センター&
横須賀地区 環境会議

本社環境連絡会

地区毎の環境保全活動の
検討と推進を図ります。

オールTMEJ 環境会議

当社の連結子会社と環境関係情報の共有化を図り、連携して環境保全活動を推進します。

2014年度活動実績

「第5次環境取組みプラン」の4年目に当たる2014年度は、全社が一丸となった取組みの推進により、全ての項目で目標を達成することができました。

目標（'14年度）			活動実績		関連頁
低炭素社会の構築	開発・設計	開発車種毎に質量目標設定	質量目標を達成	● 開発車種別に質量目標達成活動を推進	P14～P15
	生産	CO ₂ 排出量 〔台当たり排出量〕 144 kg-CO ₂ /台 以下 〔総量〕 141千t-CO ₂ 以下	142 kg-CO ₂ /台 122千t-CO ₂	● CO ₂ 低減アイテムの横展活動と日常改善の推進 ・ 設備の運転条件最適化 ・ 乾燥炉の放熱抑制 ・ 非稼働時の待機電力の低減 等	P16～P17
	物流	CO ₂ 排出量〔総量〕 7.8千t-CO ₂ 以下	7.1千t-CO ₂	● 積載効率・輸送効率向上によるCO ₂ 低減	
循環型社会の構築	開発・設計	開発車種毎にリサイクル率、リサイクル解体時間の目標を設定	リサイクルの目標を達成	● 開発車種毎にリサイクル設計の推進（解体容易な構造の開発およびリサイクルしやすい素材の採用）	P15
	生産	廃棄物〔台当たり発生量〕 7.4 kg /台 以下	7.1 kg /台	● 廃棄物の発生源対策、低減アイテムの横展とリサイクル推進 ・ 脱水汚泥や未着塗料の含水率低減 ・ 切削油の再使用による廃液の低減等	P18
	物流	梱包資材使用量〔総量〕 670 t 以下	670 t	● 梱包材の板厚や包装方法の適正化等を推進	—
	生産	水使用量〔台当たり使用量〕 2.3m ³ /台 以下	1.7 m ³ /台	● 工業用水の再利用や節水活動等を推進	P18
環境保全と自然共生社会の構築	開発・設計	開発車種毎に環境負荷物質の低減目標を設定	環境負荷物質の目標を達成	● 開発車種毎に低減目標を設定し活動を推進 ● 欧州REACH規則※に対応した着実な取組み ※REACH (Registration, Evaluation, Authorization and Restriction of Chemicals) 人の健康や環境の保護のために化学物質とその使用を管理する欧州議会及び欧州理事会規則	—
	生産	VOC 〔ボディ塗装面積当たりの排出量〕 24.4 g /㎡ 以下	22.4 g /㎡	● 塗装の塗着効率向上 ● 塗装洗浄シンナーの使用量低減および回収率向上等を推進	P19
	・ 社会貢献活動の推進		● 電動車いす パトラーフォーの寄贈 ● 東日本大震災 被災地の復興支援ボランティア活動を推進 ● 各事業所周辺での交通安全啓蒙と清掃活動を実施 ● 環境諸団体の環境保護活動への協力		P28～P31
環境マネジメント	・ 環境マネジメントの強化、推進		環境違反・苦情：ゼロ達成	● 違反・苦情の発生防止活動として、他社事例の横展および環境施設の点検と未然防止活動の推進	—
	・ ビジネスパートナーと連携した環境活動の推進		● 連結子会社と連携した環境違反・苦情防止活動とCO ₂ 等の環境負荷低減活動の推進 ● グリーン調達ガイドラインに基づく活動と地域と一体となったものづくりの推進		P8～P10 P25
	・ サステナブルプラント活動の推進		● サステナブルプラント活動のコンセプトに基づき、各地域の特徴を活かした「自然を活用し自然と調和する工場づくり」を推進		P20～P23
	・ 環境教育活動の充実と推進		● 全従業員、新入社員、新任環境管理推進者への教育を計画通り実施		—
	・ 環境情報の積極的な開示とコミュニケーション活動の充実		● 環境社会報告書の計画的な発行・情報開示と各事業所毎の環境対話集会によるコミュニケーション活動を実施		P24

開発・設計

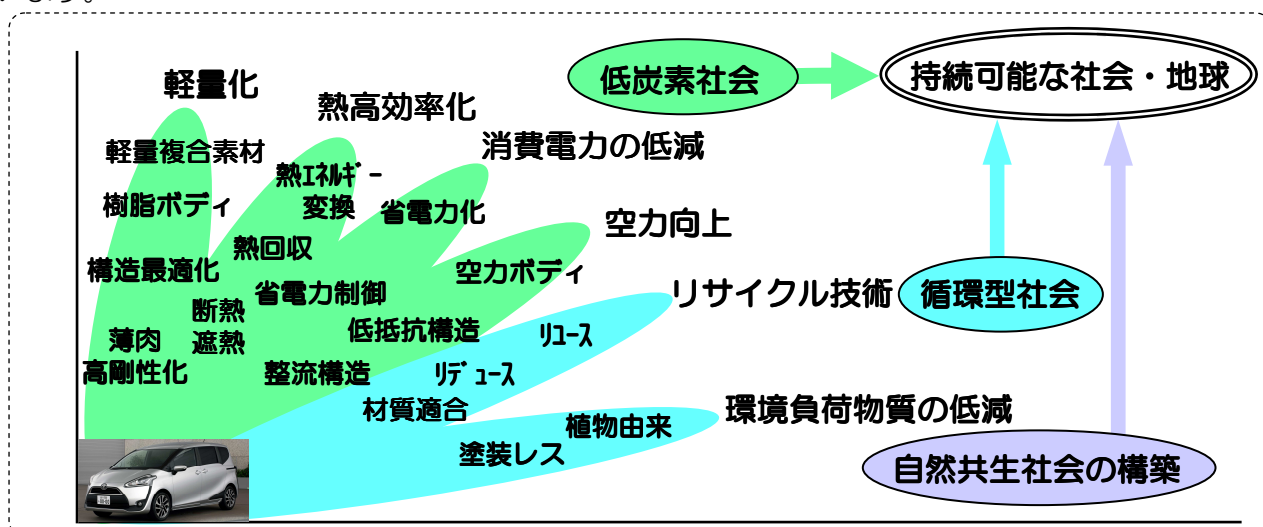
環境に配慮した製品・技術開発

当社では常に環境との調和と低炭素社会、循環型社会、自然共生社会の実現を目指して、製品開発や技術開発に取り組んでおります。当社が開発し生産する製品の環境負荷が将来にわたり少なくなるように、LCA※¹（ライフサイクルアセスメント）の視点に立ち、開発・生産から使用・廃棄に至るすべての段階で環境に及ぼす影響を検討し、お客様に提供させていただいております。

※1：クルマの走行段階だけでなく、生産から廃棄までの全ライフサイクルで排出するCO₂やその他の環境負荷の総量を評価し低減する取り組み

技術開発の取組み

当社が開発・生産する製品の環境負荷を低減するために、様々な角度から技術開発に取り組んでいます。



低燃費

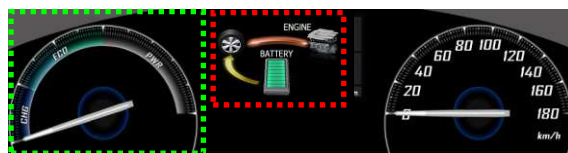
ドライバーが楽しみながらエコドライブを実践でき、また、環境意識の向上が図れるようサポートします。

エコドライブサポート

【事例】シエンタ

◆環境意識向上

- ・多彩な情報を表示し、エコドライブをサポートします。
- ・走行状態に応じて指針周囲の照明色を変化させ、エコドライブ状況をより直観的に伝えます。※²



ハイブリッド用メータ ※²



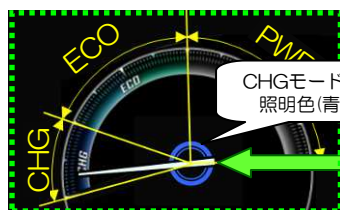
材料・電子技術部
第1電子開発室
山本 剛

◆燃費向上

- ・アイドリングストップ時間の選択が可能となり、燃費を更に向上させます。※³

※²：ハイブリッド仕様車

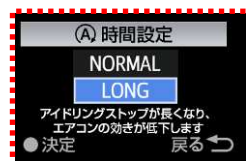
※³：ガソリン仕様車



ハイブリッドシステム インジケータ ※²

HV ECO
(青緑)

ECO
(緑)



エコドライブモニター ※³

開発・設計

消費電力の低減

消費電力の低減により、燃費の向上と排出ガスの低減を図っています。

LEDヘッドランプ

【事例】シエンタ

LEDを光源とする事により、長寿命で省電力のランプを実現しました。
更に、プロジェクターレンズの樹脂化により軽量化を図りました。



LED ランプ



第2ボデー設計部
第2機器設計室
川村 篤史

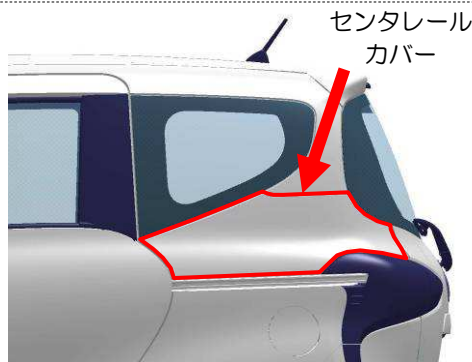
軽量化

部品の軽量化により、燃費の向上と排出ガスの低減を図っています。

センタレールカバー

【事例】シエンタ

カバーの樹脂化にあたり、変形なども考慮して十分な剛性を得られる材料を選定しました。
又、樹脂の特性を活かして意匠性も向上させました。



第1ボデー設計部
第4ボデー設計室
時野 拓一郎

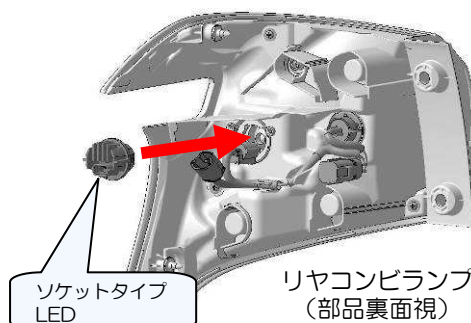
リサイクル性向上

リサイクルしやすい素材・リサイクル材の利用促進や解体しやすい構造の採用など、リサイクル性の向上と廃棄物の低減を図っています。

LEDリヤコンビランプ

【事例】シエンタ

ストップランプに交換可能なソケットタイプLEDを採用。
ランプ全体の交換からソケットのみの交換とする事により廃棄物の低減を図りました。



第2ボデー設計部
第2機器設計室
寺井 弘

生産

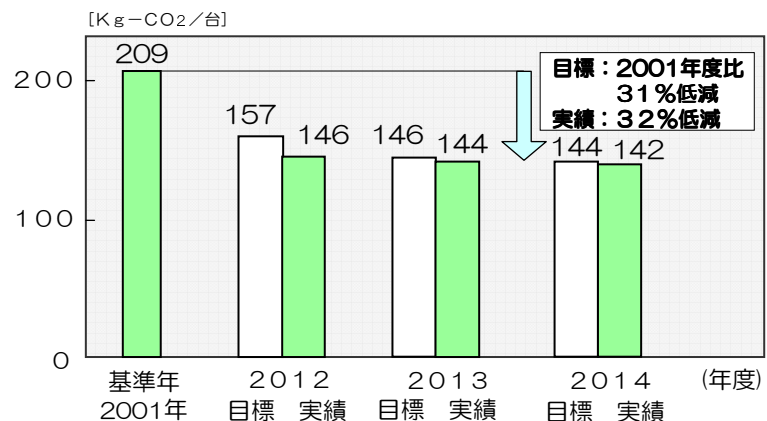
省エネルギー・温暖化防止

当社は「社会・地球の持続可能な社会」の実現に寄与するため、クルマづくりを通じて低炭素省資源で、自然と調和するものづくりの実現に取り組んでおります。その中で、3本柱の一つである低炭素社会の構築に向けては、2015年度を目標年度とした「第5次環境取組みプラン」に基づき、省エネルギーと温暖化防止に向けた活動を推進しております。

生産に伴うCO₂排出量の低減

生産活動に伴うCO₂排出量を低減するために、からくり技術等を活用した、ものづくり改革による省エネルギーや設備の運転条件見直し、非稼働時の待機電力低減等の日常での改善活動に取組み、2014年度目標を達成することができました。

生産に伴うCO₂排出量（原単位）

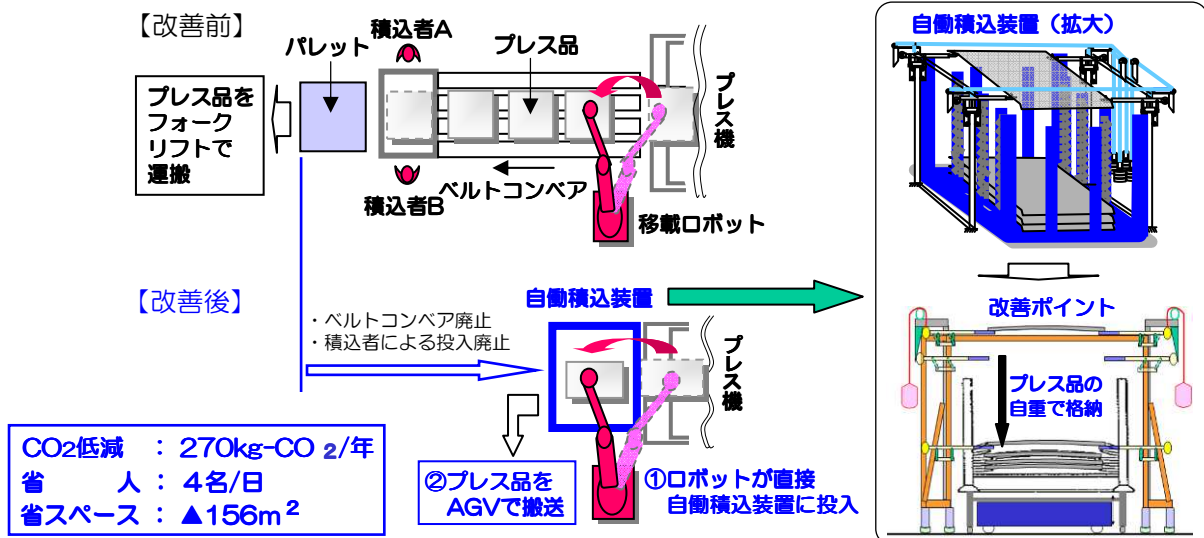


ものづくり改革の取組み

当社はグローバル競争に打ち勝つ、ものづくり競争力を確保するために、生産設備・工程のシンプル、スリム、コンパクト化をスローガンに取組み、CO₂低減を進めています。

【改善事例】製品重量を利用した無動力の自動積込装置とAGV（無人搬送車）の開発による省エネ・省人・省スペースの推進

- ①プレス品をロボットがベルトコンベアに移載・搬送 → ①プレス品をロボットが直接自動積込装置に投入
- ②積込者がパレットに投入 → ②AGV（無人搬送車）で搬送
- ③プレス品をフォークリフトで運搬



生産

省エネルギーへの取り組み事例（岩手工場）

上塗乾燥炉底部の放熱対策

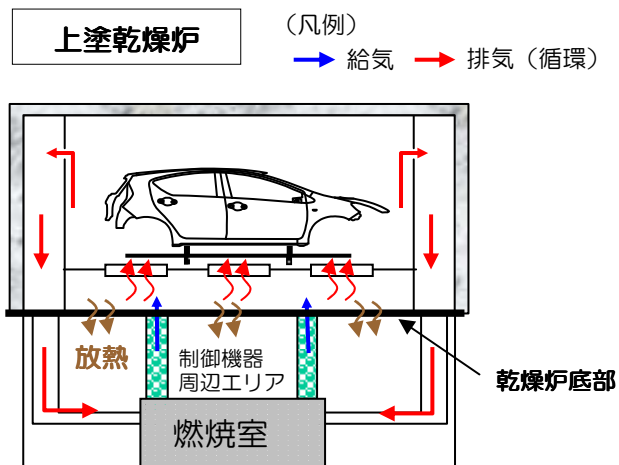
ボディの塗装工程において、上塗乾燥炉の底部からの放熱により制御機器周辺エリアの温度が上昇し、冷房エネルギーが増加していました。そこで、乾燥炉底部からの放熱を抑制することで省エネと作業環境の改善に取り組みました。今後も省エネアイテムを発掘し関係部署と協力しながら改善に取り組みます。



塗装成形部 第2塗装課のメンバー

現 状

〔問題点〕 乾燥炉底部からの放熱により、制御機器周辺エリアの温度が上昇し冷房エネルギー増加と作業環境の悪化



乾燥炉底部（下面視）



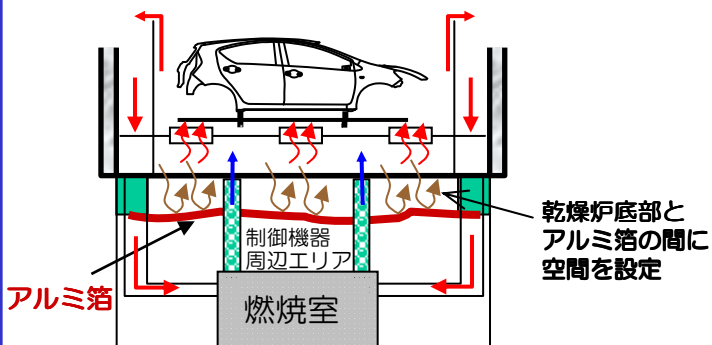
乾燥炉底部がむきだしのため、放熱発生

着 眼 点

乾燥炉底部からの放熱抑制による省エネルギーと作業環境改善

改善後

乾燥炉底部へのアルミ箔設置による放熱抑制（冷房エネルギー低減）と作業環境改善



アルミ箔設置状態

乾燥炉底部の表面温度
→ 約20～30℃低下

効 果

CO₂低減量：約110トン・CO₂/年 + 作業環境改善

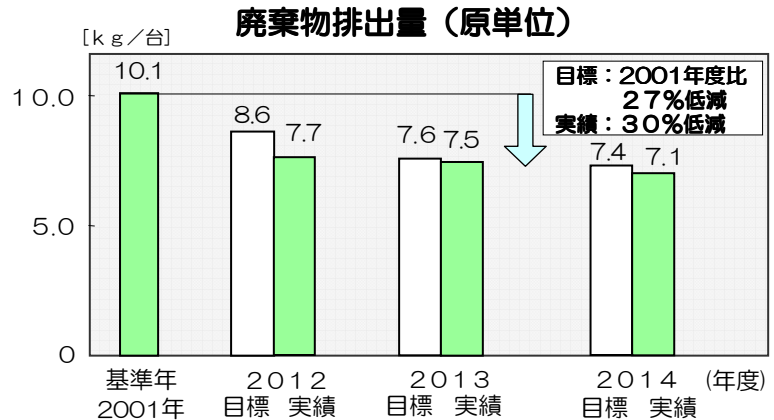
生産

当社は循環型社会の構築に向け、生産段階における廃棄物の減量化やリユース・リサイクルを通じた資源の有効利用による廃棄物の低減と水使用量の低減等に取り組んでおります。

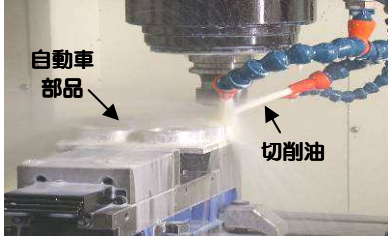
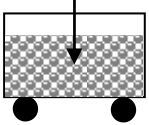
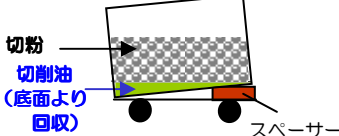
廃棄物低減活動

生産活動に伴う廃棄物を低減するために、塗装工程から排出される汚泥※¹の脱水化や部品の製造過程で使用する切削油の回収による廃液低減等を推進し、2014年度目標を達成することができました。

※¹ ボディの塗装過程で発生する塗料が固形化されたもの

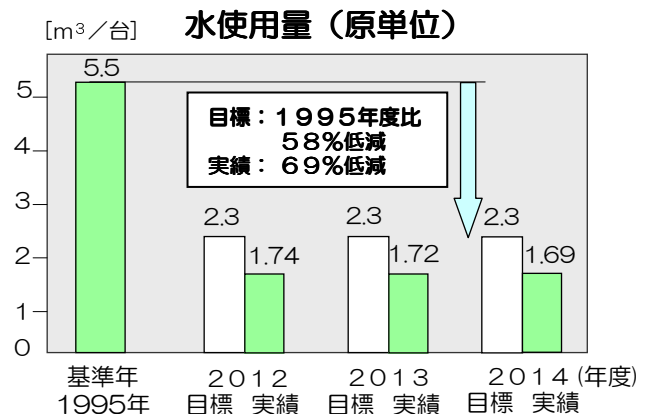


【改善事例】 切削油の回収による廃液低減

改善前	改善後
・自動車部品の切削加工には切削油※を使用しているため、この加工過程で発生する切粉には切削油が混在している。従来はこれらを金属回収業者が引き取り後、切粉と切削油を分離 ⇒ 切粉は有価物 ⇒ 切削油は廃液として処分 (分離過程で他の物質が混入し、再使用不可)	・切削油を回収し、再使用することを狙いに切粉台車にスパーサーを設置して傾斜を付け、切粉と切削油を分離 ⇒ 切粉は有価物 ⇒ 切削油を回収し再使用（廃液低減）
 自動車部品 切削油 ※ 切削油は加工面の冷却と潤滑のために使用	(改善前) 切粉と切削油が混在  (改善後) スパーサーを設置して台車を傾斜させ、切粉と切削油を分離  切粉 切削油 (底面より回収) スパーサー 廃液低減量 3,000 kg/月

水使用量の低減

水使用量を低減するために、塗装工程で使用する工業用水の再利用や全員参加の節水活動等により、2014年度目標を達成することができました。



生産

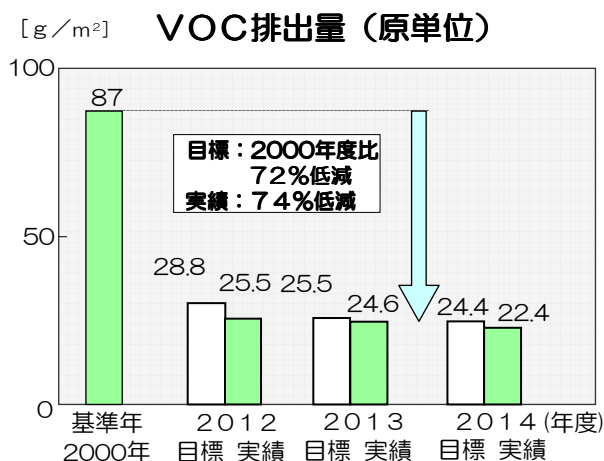
当社は人の健康と環境への悪影響を最小化するために、生産工程で使用する化学物質を環境負荷の少ないものへの転換や使用量・排出量の低減を推進しております。

第5次環境取組みプランでは、光化学スモッグの原因物質の一つであると言われているVOC※1対象物質の低減を取り上げ、主にボディ塗装および部品塗装（バンパー塗装他）工程を重点に塗料やシンナー使用量の低減活動を推進しております。

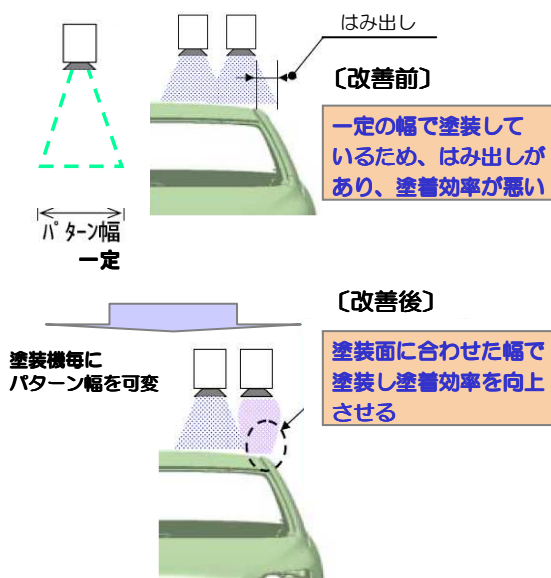
VOCの低減

VOC※1排出量を低減するために、塗着効率の向上や洗浄シンナーの使用量低減・回収率向上等を実施し、2014年度目標を達成することができました。

※1 VOCとは（Volatile Organic Compounds）揮発性有機化合物の略で、塗料やシンナーなどに含まれるトルエン・キシレンなどが代表的な物質



【改善事例】 パターン幅の改善による塗着効率向上



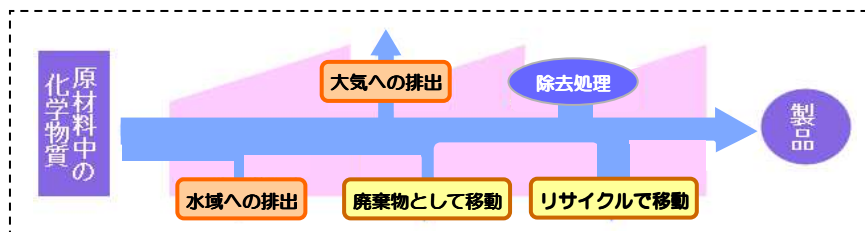
PRTTR対象物質の低減

PRTTR法※2対象物質の大气・水域への排出、および廃棄物・リサイクルとしての移動は下図のようになります。PRTTR対象物質は塗装工程で使用する塗料やシンナーに大部分が含まれているため、塗着効率の向上や洗浄シンナーの使用量低減等、VOC低減活動と連動し低減を図っています。

※2.PRTTR（Pollutant Release and Transfer Register）

環境汚染物質排出・移動登録制度の略で、環境リスクを持つ有害な化学物質を企業・行政・住民等が協力し全体で低減する狙いから、企業がその物質の排出量や移動量を把握・行政へ届出し、行政が公表する制度

《PRTTR法の対象物質の排出・移動のイメージ図》



環境保全活動

当社はクルマづくりを通じた住みよい地球と豊かな社会づくりに寄与するため、地域の特徴を活かした「自然を活用し自然と調和する工場づくり」に地域と連携し取り組んでおります。

本社・宮城大衡工場

[② 詳しくはこちら](#)

自然を活用し自然と調和する工場づくり

「コンパクト・フレキシブル・ハーモニー」をコンセプトに 地域社会・自然との共生を図りながらクルマづくりを行っております。

森づくり

この地は元々、緑豊かな森でした。その森を少しでも元に戻すため、近隣の「万葉の森」で集めたどんぐりを大事に育て、大きく育った苗を植樹していきながら、木々に囲まれた自然豊かな工場づくりを進めています。



どんぐり拾いの様子



育った苗木



第2回植樹会

緑化活動の一環として遊歩道に桜植栽を行い、将来にわたり桜並木を育てていきます。



地域社会への寄与（美化活動等）

従業員による工場周辺道路と駐車場周りの清掃活動を定期的の実施しています。



環境保全活動

宮城大和工場

「高効率でエコを追求するユニット工場」をスローガンに「自然との共生」「地域との絆づくり」「従業員のエコマインド醸成」を目指したものづくりを推進しております。

緑を活用した自然と調和する工場づくり

宮城大和工場では、2年目のサステナブルプラント活動として、工場敷地の中心にある食堂棟へ、グリーンカーテンによる暑熱対策を狙いとした、ゴーヤの植栽を行いました。

多くの参加者が見守る中、労働組合と各部代表がゴーヤ苗をプランターへ植栽



工務部



労働組合



生産部・品管部

150株のゴーヤ苗植栽後、みんなで毎日の水やりや剪定を行い、成長をやさしく見守りました



植栽式（2014年7月）



つるが伸びて（8月上旬）



屋根まで成長（9月上旬）



約300個収穫



ゴーヤを調理

従業員が収穫したゴーヤは工場内食堂にて調理され、昼食の小鉢として提供しました。

地域社会への寄与（美化活動等）

従業員による工場周辺道路と駐車場周りの清掃活動を4月～12月に実施しています。また、地域企業の皆様と連携した周辺の池や公園の美化活動も実施しています。



工場周辺の道路を清掃



工場近隣の池周辺を清掃



清掃で集められたゴミ

環境保全活動

岩手工場

「人と環境にやさしいクルマづくり」を合言葉に、緑豊かな岩手の地で地域や自然との共生を図りながら生産活動を行っております。

自然を活用し自然と調和する工場づくり

森づくり

岩手工場のサステナブルプラント活動は「緑豊かな岩手の環境との共生」を目指し、自然エネルギーの活用や森づくり等による生態系保護を推進しています。過去6回の植樹会でどんぐりを主体に約17,000本を植樹しました。



従業員どんぐり拾い



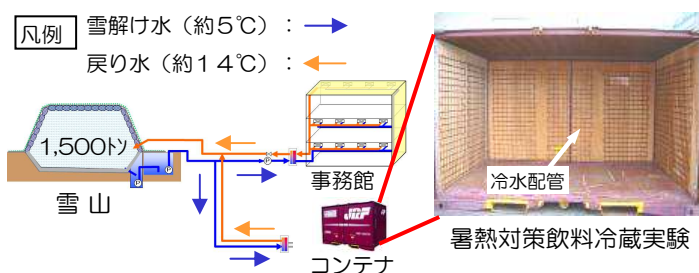
第6回植樹会

雪冷熱利用

雪解け水を利用し、夏場の事務館などの冷房として使用しています。

新たにJRコンテナを利用した移動式雪冷房や暑熱対策飲料冷蔵実験等、更なる雪冷熱の有効活用の実現に向けた取組みを推進しています。

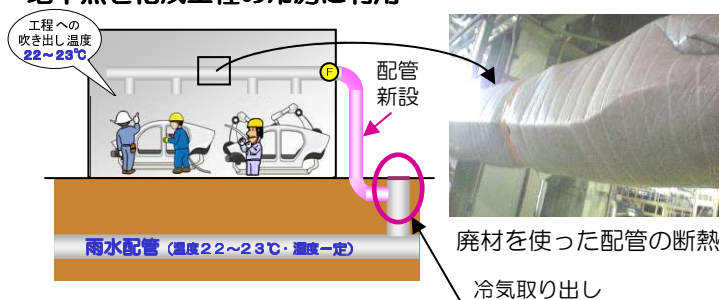
事務館・組立冷房用雪山



地中熱利用

外気温が変動しても温度・湿度が一定である地中熱に着目し、地中にある既存の雨水配管を使った冷房を実施しています。更に冷房効果をあげるため、空調のフィルター（廃材）を利用し配管を断熱するなど、改善しながら活用を図っています。

地中熱を化成工程の冷房に利用



地域社会への寄与（美化活動等）

工場周辺道路の清掃や草刈を定期的に行っています。金ケ崎町主催の「金ケ崎町クリーン作戦」「ふるさと守りたい清掃活動」の清掃奉仕活動、その他地域のイベントにも積極的に参加しています。

金ケ崎町クリーン作戦

雪が解けた4月、豊かな水と緑の町金ケ崎を次世代に引き継ぐため、ゴミ拾いを実施しました。また、従業員による清掃活動（1回/月）実施しています。



工場周辺の山林を清掃



工場周辺の道路を清掃

環境保全活動

東富士工場

自然に恵まれた富士の裾野で、地球環境及び地域との共生を図り、継続的な環境管理活動を推進しております。

自然を活用し自然と調和する工場づくり

工場スローガン「富士山の水と緑を守る活動」

✿ わさび栽培

清水が必要とされるわさび栽培を富士山の地下水を活かし2011年度より始めています。2013年度よりポットと砂利による土壌改良を行いました。量産に向け引き続き活動をしていきます。



わさび栽培の土壌改良



苗の生育状況
(2015年1月)

✿ マイクロ水力発電

排水処理施設の放流口にマイクロ水力発電機を設置し、発電した電力を使い「おもてなし活動※1」のアイテム(案内板等)などで有効活用できないか検討をしています。

※1 お客様が喜び、安全で楽しめ、歩きたくなるような工場を目指した活動



水力発電機(2015年3月)

✿ 芝桜植栽

工場内緑化活動の一環として始めた芝桜植栽から4年目を迎えました。加えて、工場の顔である正門周りを「おもてなし活動」の一貫として新たな緑化の検討をしています。



芝桜の生育状況(2014年4月)

地域社会への寄与(美化活動等)

✿ 美化活動

従業員によるクリーンキャンペーン活動ならびに管理職によるハッピーハート活動※2を実施し、工場周辺道路(岩波駅まで)や駐車場周りの清掃活動を定期的実施しています。

※2 明るく・楽しく・元気な工場を目指した活動

(活動頻度) クリーンキャンペーン: 月1回
ハッピーハート: 週1回



岩波駅周辺の清掃



五竜の滝周辺の清掃

✿ 河川清掃活動

2014年度は雨の中での活動となりましたが、従業員参加による狩野川水系・裾野市中央公園「五竜の滝」周辺の美化活動を実施しました。

地域社会とのコミュニケーション活動

当社は良き企業市民として、社会と調和した成長を目指し、地域の皆様とコミュニケーションを図りながら、環境保全活動を推進しております。

宮城大和工場

大和・大衡エコフォーラム（仙台北部工業団地各企業）

仙台北部工業団地の各企業および行政の皆様との環境に関する情報交換・相互研鑽を目的に「大和・大衡エコフォーラム」を輪番で年4回開催しています。2014年度は宮城県より法規制変更情報の提供や廃棄物処理業者より廃棄物の有償化が可能な企業をご紹介頂きました。また、蛍光灯・乾電池・木くずを共同回収することで、物流CO2低減による地球温暖化防止やコスト低減に繋がる活動を推進しています。



廃棄物業者のご紹介



省エネ事例紹介



意見交換

岩手工場

環境コミュニケーション報告会

地域住民の皆様との環境に関する情報共有化を主な目的に、金ヶ崎町民、奥州市民、県内企業の皆様をお招きし、報告会を開催しました（平日、祝日の2回開催）。当日は環境に関する当社の取組みを説明し、意見交換を行いました。



自然エネルギー活用体験
（雪冷熱利用）



排水処理説明



意見交換

東富士工場

県政さわやかタウンミーティング

地域の皆様との環境に関する情報の共有化を目的に、静岡県及び裾野市との協賛でタウンミーティングを開催（2月11日）しました。当日は行政8名と近隣住民および県内企業27名の皆様をお招きし、環境に関する取組みの紹介や環境施設・工程の見学と意見交換を行いました。



環境施設見学
（コ・ジェネレーション）



工程見学及び省エネ事例の紹介
（プレス工程）



意見交換

子会社の取組み

第5次環境取組みプランでは、当社と連結子会社各社が環境に関する取組み項目と目標を共有しながら、一体となって活動を推進しております。

🌿 (株)C & Dの取組み

当社は2009年4月1日に旧セントラル自動車グループの車体部品メーカーである株式会社シーエスアイと大昌工業株式会社の合併により設立いたしました。

2011年6月に神奈川県より宮城の地へ移転し、東北での価値あるものづくりを支える車体部品メーカーとして一層の発展・飛躍ができるよう努力を重ねております。

1. 環境の取組み

『地球に優しい工場作り』を基本理念に事業活動を行う事で広く社会に寄与していきます。また、この基本理念に基づき環境マネジメントシステムを構築し、その着実な運用と継続的な改善を実施するための環境方針を定めて推進しております。

尚、宮城県へ移転後、2012年6月に環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001の認証を移行登録し、2014年9月に登録を更新しております。

2. 主な活動内容

🍀 環境知識習得と意識向上活動

CO2や廃棄物の排出量低減を図るため、全従業員に対する環境教育や改善活動の確認を定期的に行い、一人ひとりの意識向上と改善の推進を図っています。



定期的な環境教育



環境寄書きポスター作成と掲示



改善活動の確認会

🍀 緑化活動・美化活動

トヨタ自動車東日本グループの一員として、本社・宮城大衡工場内での緑化活動や美化活動等に積極的に参加し、環境保全に取り組んでいます。



本社・宮城大衡工場の植樹会



植樹会への参加者



本社・宮城大衡工場内の清掃

社会性報告

お客様との関わり

品質保証

当社は「お客様第一」「品質第一」のクルマづくりを実践し、お客様の期待に応える「世界一の魅力あるコンパクト車」をお届けすることを目指しております。そのために、クルマづくりに携わる一人ひとりが、品質最優先の意識を持ち改善に努め、全社で連携してお客様の安心と安全、満足度の向上に努めております。

「お客様第一」の風土づくり

全社員への「お客様第一」「品質第一」の意識浸透の仕組みとして、品質教育を実施しています。また、トヨタ自動車（株）と連携した品質講話会、品質事例展示会等を定期的開催し、品質に対する問題意識を共有しながら、各業務に取り組んでいます。

2014年度は「心の研鑽会」（部長がリードし模範組長を作り拡大する活動）を通じた部長・課長・工長・組長との日々のコミュニケーションや、毎月11日に実施している「品質教育の日」に全工程員が参加し、品質知識や意識の向上を図っています。また、やりにくい作業、気を遣う作業（YK）の吸い上げと改善も行っています。これらの活動を通じ、高品質なクルマづくりに繋がっています。

全社を挙げた品質向上活動の推進により、2014年度トヨタグループ品質向上活動表彰にて、当社は最も品質が良い工場に授与される品質最優秀賞を含めた4つの賞を受賞することができました。



品質教育の日
（コネクタの
嵌め合い作業体験）



品質講話会



品質事例展示会

（勉強した工程員の声）
コネクタの種類や大きさにより、すぐ抜け易い物と、そうでない物があるのを初めて知った。
お客様に迷惑を掛けないようYK（やりにくい、気を遣う）作業があったら職制に相談します。

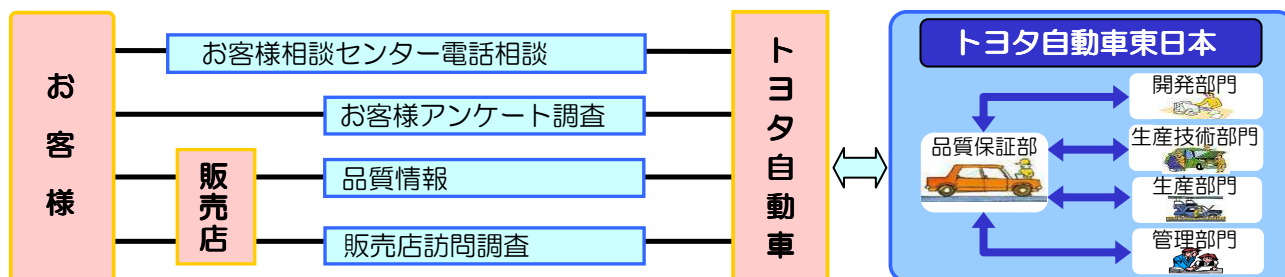


2014年度トヨタグループ
品質向上活動表彰

- ・品質最優秀賞（宮城大衡工場）
 - ・品質優良賞（岩手工場）
 - ・ユニット品質優秀賞（宮城大和工場）
 - ・新型車WR※賞（宮城大衡工場）
- ※ Warranty Reduction 新型車市場品質評価

お客様の声の収集と素早い対応

トヨタ自動車（株）に入ったお客様からのご相談やご意見、貴重な品質情報は、トヨタ自動車と連携を図り素早く改良・改善を実施し、その結果をお客様にフィードバックしています。また、当社で生産している北米向け輸出車は、お客様の生の声を聞き、現地現物での調査・確認と速やかな対応ができる様、当社従業員が米国トヨタ自動車販売（株）に駐在し、現地スタッフとともに品質向上活動を展開しています。



社会性報告

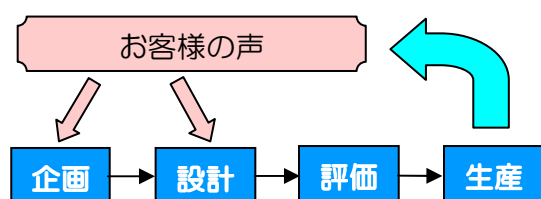
お客様との関わり

人に優しい製品づくり

福祉車両、福祉機器の開発

- 当社は「すべてのお客様に快適な移動の自由を」「お客様の幸せな暮らしのために少しでもお役に立つこと」これを合言葉に、電動車いすや福祉車両などを開発しております。
- 福祉施設や展示会にてユーザーの皆様のご意見をお伺いし、製品開発に活かす活動を進めております。

お客様の声を製品開発へ反映



当社で生産している福祉車両の種類

使用目的	車両仕様
助手席への移乗補助	回転シート／昇降回転シート
後席への移乗補助	回転シート／昇降回転シート
車いすのまま乗降	車いす移動車（リヤスロープ）
自分で運転	移乗補助／車いす収納装置

◆お客様のご意見を製品開発へ反映するため、福祉機器展示イベントに出展



ウェルライドの試乗

◆当社開発の福祉機器の例



車いすドライバー向け移乗補助装置「ウェルライド」

◆当社開発の福祉車両の例



助手席リフトアップシート、車いす収納装置



スピード助手席リフトアップシートの説明

Patrafour®



電動車いす「パトラフォー」

4WDと特殊車輪が砂利道や坂道の走行小回りの利く走行を可能とし、行動範囲を広げます。

社会性報告

社会との関わり

社会貢献活動

地域社会とのコミュニケーションや地域における環境保全活動を通じて、地域社会から信頼される企業を目指し取り組んでおります。

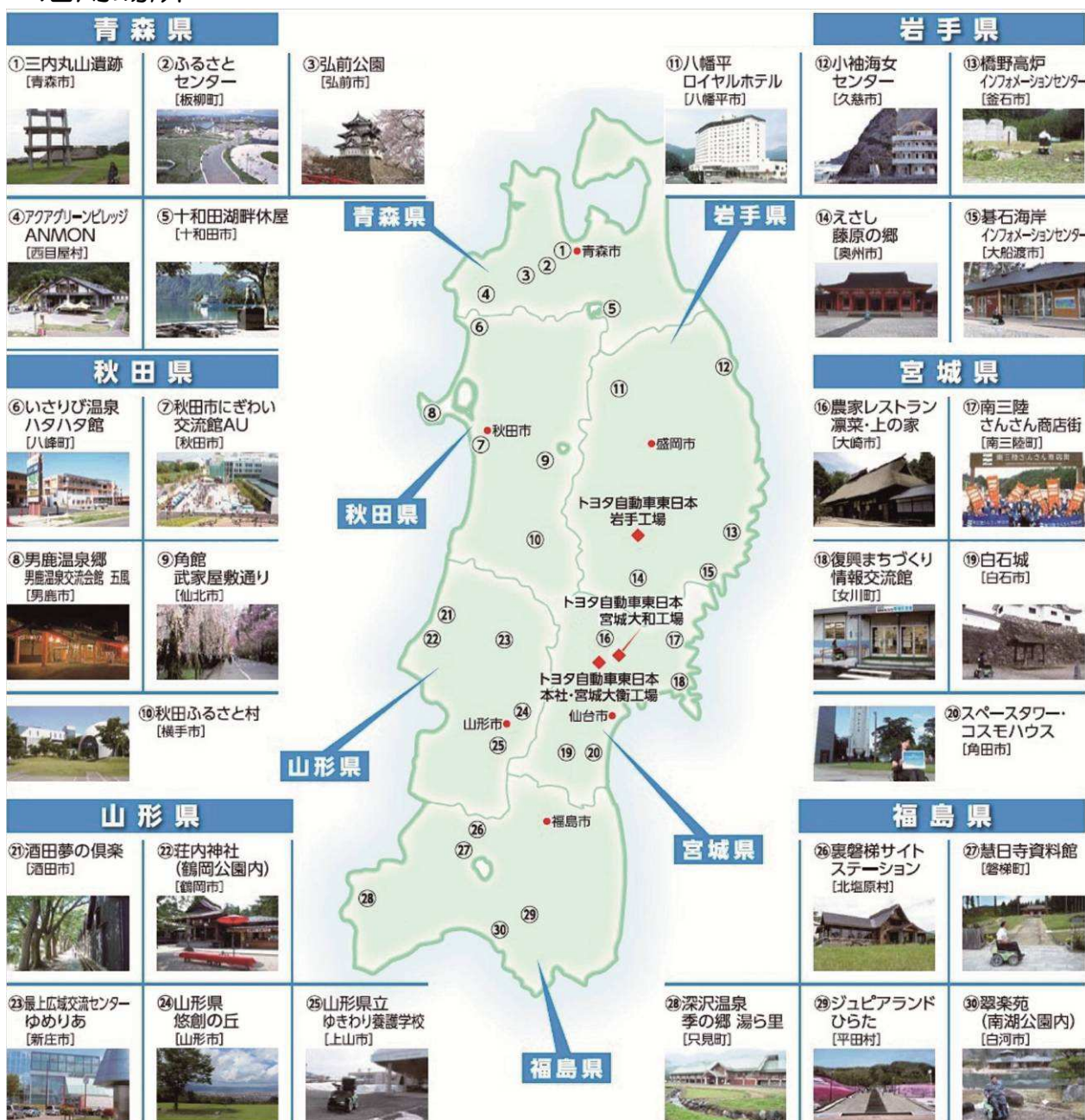
電動車いすパトラフォーの寄贈について

東北6県の高齢者や体の不自由な方にご活用頂くために寄贈させて頂いたパトラフォーは下記の各施設（30か所）でお使いいただいております。

[詳しくはこちら](#)



活用場所



注）2015年5月末時点の施設名称で表示させていただいております。

社会性報告

社会との関わり

工場見学を受入

小学5年生の社会科見学の一環として、工場見学を積極的に受け入れています。本社・宮城大衡岩手、東富士の各工場にて約36,000人にご来工いただきました。

[詳しくはこちら](#)



本社・宮城大衡工場



岩手工場



東富士工場

結[YUI]ギャラリー

地域の皆様と当社を結びつける空間として、本社・宮城大衡工場と岩手工場の2カ所にあるギャラリーでは、当社のクルマづくりにおける「開発」の取り組みやハイブリッド車の仕組みなど、目で見て触れて体感していただける展示内容となっています。昨年度は、本社・宮城大衡 23,500人、岩手 14,300人 合計 37,800人の皆様にご覧いただきました。

[詳しくはこちら](#)



本社・宮城大衡 結[YUI]ギャラリー



岩手 結[YUI]ギャラリー

新入学児童への交通安全啓蒙活動

一人ひとりが交通安全の理解を深め交通事故防止につながることを期待し、当社が拠点を置く各市町村を通じて、交通安全標識や交通ルールをプリントした定規を新入学児童約7,500人へ贈呈させていただきました。



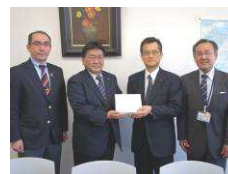
大衡村



大和町



金ケ崎町



裾野市



横須賀市

社会性報告

社会との関わり

② 詳しくはこちら

復興支援ボランティア活動

東日本大震災により被災された皆様が一日も早く平穏な生活が取り戻せるよう、トヨタグループでは2011年6月から岩手県気仙地区で復興支援ボランティア活動を継続して実施しています。当社もトヨタグループの一員として、また地元企業として従業員やトヨタ東日本学園生より有志を募り、これまでに延べ190名が参加しました。

また、当社独自の活動として、2014年7月から宮城県南三陸町でも活動を開始し、49名の従業員が参加しました。



カキ稚貝の分別



農地の石拾い、草むしり



わかめの種付け

トヨタ・マスター・プレイヤーズ、ウィーン コンサートへ 沿岸地区高校生を招待

トヨタ自動車（株）は、復興支援の一環としてトヨタ・マスター・プレイヤーズ、ウィーンコンサート仙台公演、盛岡公演を開催しました。当社もこれに協賛し、一流の演奏に触れることで心の復興の一助になればとの思いで沿岸地区の高校生（吹奏楽部員）約400名を招待しました。盛岡公演では、特に交通の便の悪い沿岸地区の高校生のために、バスによる送迎を実施しました。また、特別プログラムとして岩手県宮古市、宮城県仙台市宮城野区で開催された、ふれあいコンサート（出張コンサート）では、移動車両を提供しました。



コンサートの様子



沿岸地区の高校生（吹奏楽部員）



ふれあいコンサート

第1回「いしのまき復興マラソン」

ランナーをはじめ、大会スタッフ、沿道で応援する石巻市民など 多くの方々が一体となり石巻市の復興への一助となることを目的に第1回「いしのまき復興マラソン」が開催されました。当社もこれに協賛し、宣伝車両4台を提供しました。尚、当社従業員も43名が出場しました。



車両4台提供



マラソンの様子



当日は選手支援車として活躍

社会性報告

社会との関わり

交通安全への取組み

自動車を製造する企業として「交通安全活動」に積極的に参画していくことは私たちの使命です。「安全で環境に優しいクルマづくり」はもちろんのこと、地域や行政の皆様と連携を図りながら、従業員の交通安全意識の高揚や交通事故防止活動を積極的に推進しております。

交通安全講話会の実施

各地区近隣の警察署交通課長をお招きして、地域の交通事情を踏まえた運転の注意点を講話いただき、一人ひとりの安全運転の意識付けを図っています。



本社・宮城大衡工場



岩手工場



総合センター

運転講習会の実施

自動車を製造する企業として交通安全活動を推進するために運転講習会を実施しています。また、東北に基盤を置く企業として、特に従業員の雪道運転を想定した指導会を開催しています。



スキッドカー※を使い雪道運転を想定した講習

※スキッドカー：通常の車輪とは別に取り付けた補助輪によりスリップ状態の様な動きを再現できる車両



二輪車運転実技指導会を開催し
二輪車の安全運転にも努めています。

従業員による交通安全の呼びかけ

社内及び会社周辺にて従業員による交通安全立哨を毎月実施し、安全運転啓蒙活動に日常的に取り組んでいます。また、工場周辺の小学生下校時間に合わせた交通安全の呼びかけ活動を行い交通事故防止を図っています。



従業員による立哨



小学生への交通安全呼びかけ活動

社会性報告

従業員との関わり

安全

「全員参加で安全の自立型文化構築」をスローガンに、全社を挙げた安全活動に取り組んでおります。

安全の取組み

● 取組みの考え方

「安全が良くなれば品質、稼働も良くなる」との考えのもと
下記3本柱で取組み、災害ゼロの実現を目指しております。

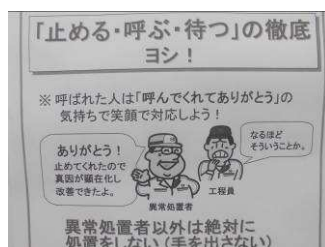
- (1) 「止める・呼ぶ・待つ」の実践で異常の再発防止
- (2) 管理監督者がしっかり現場を見切る
- (3) 安全意識の向上



安全文化の構築を誓い合う狙いで、
毎年1月13日を「安全を誓う日」
として活動

● 「止める・呼ぶ・待つ」の実践で異常の再発防止

- (1) 「止める・呼ぶ・待つ」の浸透活動
 - ・「止める・呼ぶ・待つ」活動の目的をしっかりと全員が理解し、異常があったら「止める」を職制と工程員がコミュニケーションを取り実践しています。
- (2) 異常の見える化と再発防止
 - ・異常とは標準作業から外れることと定義付け、異常が発生したら異常の内容を見える化し、1件1件本質対策を実施、再発防止につなげています。



「止める・呼ぶ・待つ」の啓発



安全担当役員
による異常の
対策状況点検

● 管理監督者がしっかり現場を見切る

- ・管理監督者は毎日現場を現地現物確認し、危険があったらその場で注意、即時対策を実践しています。
- ・安全活動の基本、管理監督者の姿勢や危険を摘出するための見方等の教育を実施しています。



階層別安全教育
の実施状況

● 安全意識の向上

- ・ヒヤリハット提案の質向上（体験→想定）に向け、職制と工程員が対話しながら活動を推進しています。
- ・危険予知能力向上のため、実作業をテーマに1人ひとりとグループで訓練を実施しています。



危険予知能力
向上訓練

社会性報告

従業員との関わり

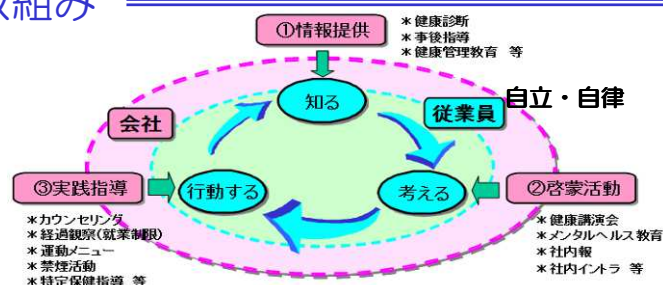
健康

心と体の健康づくり活動の取組み

● 健康管理活動のあり方

健康診断と事後指導を中心に、従業員の自立・自律を基本とした自らが健康を目指す取組みを進めております。

● 重点取組み事項



心の健康（メンタルヘルス対応）	体の健康（生活習慣病予防）
■ 発症予防・早期発見に関する活動 (1) ラインケア※ ¹ の充実 ・ストレスチェック結果に基づく、組織診断および職場対策の実施 (2) 管理監督者教育の実施継続 (3) メンタルヘルス講演会の実施 (4) カウンセリングの活用促進 ※ ¹ 管理監督者が社員へ個別指導・相談や職場環境改善を行う取組み	■ BMI※²値低減に向けた活動 (1) 社員食堂でヘルシーご飯の提供（マンナンライス※ ³ ） (2) 運動習慣づくり活動の実施 (3) 職場スポーツイベントの実施 ■ 喫煙率低減に向けた活動 (1) 就業時間内の禁煙 (2) 禁煙教室の実施 (3) ニコチンパッチ※ ⁴ 処方による禁煙治療 ※ ² Body Mass Index〔体格指数〕 体重÷（身長×身長） ※ ³ 植物繊維入り低カロリーご飯 ※ ⁴ 禁煙治療に使うニコチンを含む貼り薬

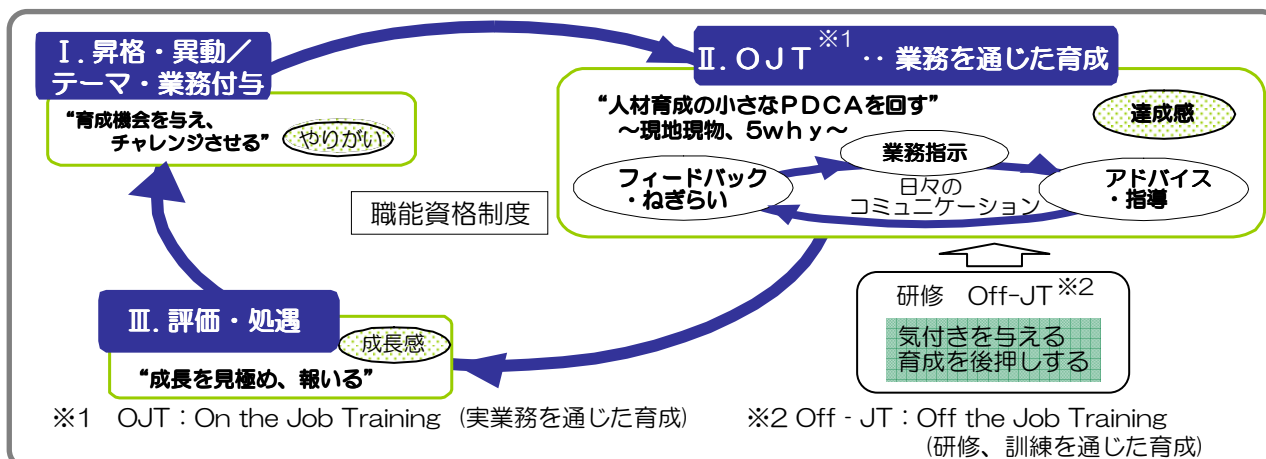
人材育成

私達は「東北を基盤に 世界一の競争力を持つ 魅力あるコンパクト車をつくる」ことを目指すために、「人が育つ・人を育てる」取組みを進めております。

人材育成の仕組み

当社の人材育成の基本的な考え方は、職能資格制度を中心に、「テーマ・業務付与」⇒「OJT」⇒「評価・処遇」⇒「昇格・異動」の人事サイクルをしっかりと回すことです。

これを補完する仕組みとして、気付きを与え、育成を後押しする各種研修制度（Off-JT）があります。職場での業務を通じ、OJTを基本に上司が部下を一貫性を持って継続的に育成を行っています。日々のコミュニケーションの積み重ねを通じ、上司・部下、先輩・後輩が「教え・教えられる風土」の中で、お互いにスキル向上を実感でき、この風通しのよい風土が職場力・現場力の向上につながっていきます。



※¹ OJT：On the Job Training（実業務を通じた育成）

※² Off-JT：Off the Job Training（研修、訓練を通じた育成）

社会性報告

従業員との関わり

人材育成

トヨタ東日本学園

トヨタ東日本学園では、将来ものづくり現場の中核として活躍できる人材の育成に取り組んでおります。対象は、当社の社員だけではなく、東北のものづくり企業の皆様にも受講いただき「人づくりを通じて東北のものづくり基盤の強化」に取り組んでおります。

◎受講生状況 [詳しくはこちら](#) (人)

		2013年	2014年	2015年
長期コース	当社訓練生	15	15	15
	企業訓練生	5	4	4
中期コース		6	6	申込受付中
短期コース		88	82	



トヨタ東日本学園 外観



第2期生の卒業式



実習風景

働き方の多様性

多様な人材が活き活きと働ける環境を作り出すことを目指し、当社では「育児・介護支援」「高齢者雇用」「障がい者雇用」などに取り組んでおります。

育児・介護支援

育児や介護に対する諸制度と働きやすさを追求した勤務制度の充実に継続的に取り組んでいます。

◎主な育児支援制度

	▼出産	▼小学校入学	▼小学校卒業
育児休職	通算3年（非ライン職場：通算2年）		
短時間勤務	4・6・7Hから選択可能		非ライン 職場限定
所定時間外労働免除			
時間外労働制限			24H/月 150H/年
子の看護に関する休暇	子1人：年5日、子2人以上：年10日		

◎主な介護支援制度

介護休職	家族1人につき1年
短時間勤務	家族1人につき1年 4・6・7Hで選択可能（非ライン 職場限定）
時間外労働制限	24H/月、150H/年まで制限
介護休暇	家族1人：年5日 家族2人以上：年10日

高齢者雇用（定年再雇用制度）

定年退職される方について、会社で培った高い技能・技術を活かしていただくことを目的に定年再雇用制度を導入しており、多くの方が現役として活躍しています。

障がい者雇用

企業の社会的責任という観点から、障がい者雇用促進に積極的な活動を行っており、雇用率は2.23%と法定雇用率（2%）を達成しています。（2015年3月末）

労使関係

当社の労使関係は労使相互信頼・相互責任を基本的な考え方としています。お互いを理解・信頼し、協力し合うことで初めて、会社の発展と従業員の自己実現が達成できるものと考え、定期的に話し合う場を設けて活発な意見交換を行っております。

社会性報告

従業員との関わり

スポーツ活動支援

従業員が一丸となって応援することを通じ、職場の一体感醸成やコミュニケーション向上を目的に3つのスポーツクラブ活動に力を入れております。

[② 詳しくはこちら](#)

スポーツクラブ活動

● セーリングチーム

1970年に発足し、1988年のソウルオリンピック出場を初めとして2012年ロンドンオリンピックまで6大会連続出場しています。RSX級で活躍している富澤選手は、2016年里オデジャネイロオリンピック日本代表選手に内定しています。また、49er級もオリンピック出場を目指し、活動しています。



RSX級：リオ・オリンピック日本代表選手に内定した富澤選手



49er級：リオ・オリンピック日本代表選手を目指す、牧野、高橋選手

● ハンドボール部

1996年に創部し、2012年度より国内最高峰の日本リーグに参戦し、日本を目指し活動しています。2014年度は日本リーグ5位、また、宮城県代表として出場した第69回国民体育大会では3位となり、著しい成長を見せています。また、個人成績でも松本選手がベストセブン賞※1を受賞するなど着実にレベルアップしています。



2015年度、躍進が期待されるハンドボール部



ベストセブン賞を受賞した松本選手

※1 日本ハンドボールリーグ（2014年10月25日～2015年3月8日）において、各チーム関係者から優秀な選手7人を投票で選出

● 硬式野球部

2012年4月に創部し、「仕事も野球も100%」をスローガンに都市対抗野球大会本選出場を目標に活動しています。2015年度は都市対抗野球大会で東北二次予選まで勝ち進みました。また、日本選手権の本戦出場を目指し、チーム一丸となって頑張っています。



岩手県を代表するチームとして更なる活躍が期待される硬式野球部

社内駅伝大会

従業員の一体感やチームワークを醸成し、職場のコミュニケーションを活性化させる施策として、駅伝大会を実施しています。開催3年目の2014年度は、一般の部・シニアの部に加え、「楽しく健康的に走る」を目的に「ふれあいの部」を新設し、従業員家族合わせて約3,200名の方が参加しました。



各地区の予選を勝ち抜いたチームによる決勝大会（第3回大会：本社・宮城大衡工場にて）

【読者の皆様へ】

ご意見、ご要望をお聞かせいただきたく、こちらのメールアドレスに宜しく
お願い致します。

ci_ankan@toyota-ej.co.jp

発行部署 トヨタ自動車東日本株式会社 安全・環境室
〒981-3609 宮城県黒川郡大衡村中央平1番地
お問い合わせ先 安全・環境室 環境グループ
TEL 022-765-6172
FAX 022-765-6333
発行 2015年7月



当社の環境ロゴマーク